ニーズトーマッチ特許ホワイトペーパー2025(米国編)

発行日: 2025年6月11日 発行元: NEEDSTOMATCH CORPORATION

ニーズトーマッチ米国特許ファミリーが拓く、動的マッチングの未来

はじめに: 未来のマッチングを定義する

NEEDSTOMATCH CORPORATIONは、単なる情報の仲介に留まらない、次世代マッチングプラットフォームの基盤技術を開発・提供するリーディングカンパニーです。従来の静的なマッチングは、「早い者勝ち」や「一回限り」の取引しか生み出せず、機会損失や信頼性の欠如といった課題を抱えていました。

我々は、この課題を解決するため、計画と実績の乖離を学習し、参加者の信頼性を動的に評価し、市場全体の情報を最適に共有するという、全く新しいパラダイムを提唱します。この思想に基づき、我々は長年にわたり研究開発投資を続け、強固な知的財産を構築してまいりました。

本報告書は、当社の技術的優位性の根幹をなす米国特許ポートフォリオについて、その構築経緯と戦略的価値を深く理解いただくため、弊社自身による徹底的な分析結果をまとめた公式なものです。

第1章: 分析の概要

1.1. エグゼクティブ・サマリー

本分析の結果、当社の米国特許ポートフォリオは、単発の特許の集合ではなく、2011年の優先権主張から約10年をかけて構築された、極めて体系的かつ多層的な特許網であることが確認されました。その技術的範囲は、(1)信頼性計算のコアエンジン、(2)ユーザー主導のUI/UX、(3)市場を活性化させる情報共有の三層に及び、現代の主要なデジタルプラットフォームの根幹機能に深く関わります。

審査経過を詳細に分析したところ、複数の特許が初回アクションで許可(First Action Allowance)されており、また他の特許も主要な先行技術との差異を明確に認定された上で成立していることから、ポートフォリオ全体の有効性は非常に高いと結論付けられます。本ポートフォリオは、動的マッチングおよびリソース最適化の分野において、技術的にも法的にも強力な参入障壁を構築しており、関連市場で事業を展開する企業にとって、その存在を無視することは困難な戦略的資産であると評価します。

1.2. 分析の対象と方法

- 分析対象: 以下の5件の米国特許。
 - [US 10,304,100 B2](#) (以下、'100)
 - [US 10,438,255 B2](#) (以下、'255)
 - [US 10,878,468 B2](#) (以下、'468)
 - [US 11,393,003 B2](#) (以下、'003)
 - [US 12,236,461 B2](#) (以下、'461)

2. 分析手法: 米国特許商標庁 (USPTO) の公開情報である、各特許の審査経過記録 (File Wrapper) を精査。特許請求の範囲の変遷、審査官の拒絶理由、出願人の応答・補正、そして最終的な許可理由を分析し、各特許の権利範囲の射程と法的安定性を評価しました。
 - a. 根拠資料の完全な収集: 米国特許商標庁 (USPTO) の公開データベースより、分析対象となる全5件の特許について、出願から登録までの全審査記録を含む完全なファイルラッパー (File Wrapper) を取得。
 - b. AIによる審査経過の徹底的な追跡・分析: AIを活用し、各特許のファイルラッパーを精査。情報開示陳述書 (IDS) や拒絶理由通知 (Office Action) で引用された全ての先行技術を分析し、出願人の応答や補正といった全審査過程を時系列で追跡。これにより、各特許の有効性の根拠と、禁反言 (Estoppel) に代表される潜在的リスクを客観的に抽出。
 - c. AIによる充足性スクリーニングと侵害論理の検証: 市場に存在する多数のサービスをモデル化した仮想被疑侵害製品群をAIに設定。各特許の請求項との充足性分析を多角的に行い、想定される侵害論理の強度を測定。
 - d. 専門家による検証と分析精度の極限化: 上記 (b,c) のAIによる一次分析結果に対し、人間の専門家がその論理的整合性および事実との一致性を厳密に検証。検証過程で発見された論点の更なる深掘りや、異なる角度からの再分析をAIに指示。この「AIによる高速・網羅的な分析」と「専門家による厳格な検証・フィードバック」のサイクルを繰り返すことで、分析の精度と客観性を極限まで高めました。
 - e. 統合分析レポートの完成: 上記プロセスを経て確定した5特許の個別分析ファイルを統合し、特許ファミリー全体の戦略的価値を評価することで、本分析は完成しました。

第2章: ポートフォリオの戦略的構造

2.1. ポートフォリオの時系列的発展

本ポートフォリオは、明確な戦略のもとに段階的に構築されています。

- **2012年～2019年: 基盤技術の確立 ('100)**

'100特許は本ポートフォリオの技術的礎であり、「計画と実績の乖離」を**「情報要素の数の差」**に基づいて定量化するactual-versus-forecast comparison ratioという核心的発明を権利化しました。この特許は、§101 (特許適格性) および§102 (新規性) の拒絶を、具体的な計算ロジックの導入によって克服しており、その審査過程は後続の特許群の有効性を支える強力な基盤となっています。
- **2019年～2022年: 権利の強化と拡大**

基盤技術の確立後、当社は以下の3つの方向に権利を拡大・強化しました。

 1. コアエンジンの強化 ('255, '003): '100特許の信頼性計算の概念をさらに発展させたこれらの特許は、いずれも**初回アクションで許可 (FAA)**されています。これは、発明の質の高さをUSPTOが当初から認めたことを意味し、極めて安定した権利です。
 2. UI/UXへの拡張 ('468): '468特許は、信頼性計算だけでなく、ユーザーが自らのスケジュールを能動的にマッチング要求へと転換するという、具体的なユーザーインターフェースにまで権利範囲を拡張しました。
 3. ネットワーク効果への拡張 ('461): '461特許は、マッチングの当事者以外へも情報共有を行うという、プラットフォームのネットワーク効果を促進する仕組みを権利化しました。

この時系列発展は、当社が長期的な視座に立ち、計画的に知財戦略を推進してきたことを明確に示

しています。

2.2. 技術テーマ分析: 三重構造の特許要塞

本ポートフォリオは、技術テーマの観点から、以下の三重構造の「要塞」として評価できます。

- 第一層: コア計算エンジン - 「信頼性」の定量化
 - 該当特許: '100, '255, '003
 - 保護対象: 過去の計画(例: 募集人数、予約枠)と実績(例: 採用数、実行数)を比較し、ユーザーや取引の「信頼性スコア」「達成値」「将来予測」などを算出するシステムの根幹ロジック。この技術により、ドタキャンや品質のばらつきといったリスクを最小化します。
- 第二層: ユーザーインタラクション - 「意思」のシステムへの反映
 - 該当特許: '468
 - 保護対象: ユーザーが自身のカレンダーやタスクリストといったスケジュール情報を、単なる備忘録としてではなく、能動的に「供給(仕事をしたい)」または「需要(仕事を発注したい)」の意思表示としてシステムに認識させるためのUI/UXフレームワーク。
- 第三層: 市場活性化ネットワーク - 「機会」の再分配
 - 該当特許: '461
 - 保護対象: ある取引が成立した際に、その取引に参加できなかった他のユーザーに対し、その取引の成立情報や代替案を通知することで、潜在的な取引機会を掘り起こし、市場全体の流動性を高める情報共有メカニズム。

これら三層は、それぞれが独立して機能しつつも相互に連携しており、極めて広範な技術的実践をカバーしています。そしてこれらの特許の中には、拒絶理由を一度も受けることなく特許査定となったもの(**First Action Allowance**)が複数含まれており、その発明の新規性・進歩性の高さは客観的に証明されています。また、審査過程で他の主要な先行技術と徹底的に比較検討された上で、その独自性が明確に認められた、極めて質の高い権利群です。

2.3. 法的安定性の評価

本ポートフォリオの各特許は、それぞれの時代の主要な先行技術(Richardson, Agrawal, O'Sullivan等)と対比され、その上で新規性・進歩性が明確に認められています。特に、'255と'003の初回アクションでの許可は、これらの権利が無効化されるリスクが低いことを強く示唆します。他の特許('100, '468, '461)についても、拒絶理由を克服するためにクレームが補正されていますが、これは権利範囲がUSPTOとの対話を通じて明確に定義されたことを意味し、その確定した範囲内での権利の安定性は逆に高いと評価できます。

第3章: 市場への影響と戦略的価値

3.1. 広範な応用可能性と具体的なサービスモデル(アーキタイプ)

我々の特許技術は、特定の業界に限定されるものではありません。特に、以下のような特徴を持つ先進的なデジタルサービスにおいて、その中核的価値を発揮します。

- ライドシェアリング
 - 大手ライドシェアリング・プラットフォームにおける、ドライバーの過去の運行実績(計画対実績)に基づく評価システムと、配車確定で更新された配車状況に基づく統計情報(配車状況による需要予測)を第三者(同地域の他のドライバー)へ共有する機能。

- '100, '255, '003 and '461
- ギグワーク
 - 代表的なギグワーク仲介サイトにおける、発注者の過去の募集と採用実績の比較に基づく信頼性スコア表示や、ワーカーのスケジュール管理画面から直接「応募」や「稼働可能」の意思表示を可能にするインターフェース。
 - '100, '255, '003 and '468
- フードデリバリー
 - 主要なフードデリバリーサービスにおける、配達員の割り当て最適化、および注文キャンセルが発生した際に、近隣の代替店舗や待機中の配達員へリアルタイムで新たなマッチング機会を通知するメカニズム。
 - '461
- オンライン旅行・宿泊予約
 - オンライン予約・宿泊仲介サイトにおける、ホストの過去の予約承認率や宿泊客のレビュー評価を組み合わせた信頼性指標の提示、およびキャンセルが発生した際に、空室の発生(または繰上げ予約確定)を他の予約希望客(およびキャンセル待ち客)へ通知(共有)する機能。
 - '100, '255, '003 and '461
- Eコマース
 - 大手Eコマースプラットフォームにおける、無数の出品者の販売実績・配送遵守率に基づく「セラー評価」の算出ロジック、および購入希望商品が在庫切れとなった際に、他の出品者による同一商品や類似商品を推薦する情報共有システム。
 - '100, '255, '003 and '461
- オンラインオークション(C2C取引)
 - C2Cオンラインオークションサイトにおける、個人の出品者の過去の取引完了率や落札者からのフィードバックを基にした「信頼度」の可視化、および最高入札額が更新された際に、アウトビッドされた(第三者となった)入札者に対し、その旨を通知する機能。
 - '100, '255, '003 and '461
- サプライチェーンマネジメント(SCM)
 - 先進的なサプライチェーンマネジメント(SCM)システムにおける、部品供給のフォーキャスト(計画)と実際の納品実績(納期、数量)との乖離率を算出し、サプライヤーのパフォーマンスをランク付けする機能。
 - '100, '255, '003

3.2. 総括: 高い参入障壁と無許諾での実施リスク

本ポートフォリオは、現代的なマッチングプラットフォームが実装するであろう中核機能(信頼性評価、動的UI、レコメンデーション)を広く、深く保護しているため、同分野への新規参入や既存事業者の機能拡張に対して、顕著な参入障壁を形成しています。

上記の市場において、類似の機能は無許諾で実装しているサービスは、本ポートフォリオのいずれかの特許権を侵害しているリスクを内包していると評価せざるを得ず、権利の有効性が高いため、このリスクは事業継続性において看過できないレベルにあると考えられます。

第4章: 結び - 未来の市場を共創するために

NEEDSTOMATCH CORPORATIONの米国特許ポートフォリオは、長期的かつ戦略的な意図を持って構築された、技術的にも法的にも堅牢な資産です。その影響範囲は広く、関連するデジタルP

プラットフォーム市場の競争環境を左右しうる、重要な戦略的価値を有します。
我々は、自社の革新的な技術が、健全な競争と協力関係のもとで広く活用されることを望んでいます。当社の特許ポートフォリオにご関心をお持ちの企業様、あるいは自社サービスとの関連性についてご不明な点がございましたら、対話の機会を歓迎いたします。我々の知的財産を尊重いただき、共に未来の市場を創造していくパートナーシップを期待しております。